

博物館活用カード

活用資料コーナー及び資料名	川越のあけぼの 横穴式石室、直刀、勾玉、銅鏡、指輪、埴輪
資料についての解説	○横穴式石室 南大塚4号墳。全長36mの前方後円墳。6世紀頃のもの。 ○直刀、勾玉、銅鏡 死者に副葬された装身具。銅鏡の文様等の細やかさは見事であり、また横から見ることによって凸面になっている。勾玉やガラス玉は、川越では採れない材質であり、他地域との交流があったと考えられる。 ○指輪 金をまき、縞のデザインを入れて凝った作りになっている。
学習内容	・遺跡や遺物を調べて、社会の様子が変わったこと。 ・米の生産力の向上が、富を生み、貧富の差や争いをもたらし、権力を持った有力者が出現したこと。
〔博物館での学習〕 ①横穴式石室を調べてみよう。 ※これは何か。どのような場所に作られることが多いか。石の形態に着目させる。 ②どのような人の墓か。それは、どんなことからわかるか。考えてみよう。 ※銅鏡、埴輪、勾玉等に着目させる ③権力を持つ人が現れるようになった大きな理由は何かを考えてみよう。	
評価の観点	・権力の大きさについて遺跡や遺物をもとにして調べることができる。(技能・表現) ・権力を持つようになった理由を考えることができる。(思考・判断)
活用のための留意事項	・ワークシートとともに教師の助言等が必要。あるいは、手がかりを得るためのヒントカードを個々に応じて配布するなど。 ・銅鏡については、真上・真横から見ることによって、細かな文様や材質に目を止めさせ、作ることの大変さ、有力者等しか手にすることができないことに気付かせ、権力者の出現を感じ取らせたい。